

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
基本施策1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実	(1) 気軽に楽しめるスポーツの充実	①市民スポーツ大会・イベントの充実	年間を通じて様々なスポーツ大会の後援及び側面支援をするほか、マラソン大会をはじめとしたスポーツイベントの充実を図ります。	市民スポーツ大会の支援	・市民スポーツ大会を市と共催で実施しており、各大会で使用するスポーツ施設の利用料金の減免補助を行っている。 ・広報かしわや市ホームページでの広報など、参加者募集に係る協力を行っている。
				手賀沼エコマラソン大会の充実	・平成29年度（第23回大会）から日本陸上競技連盟の公認大会（ハーフマラソン）として実施している。 ・令和6年度は第30回記念大会のため、ハーフマラソンの他、5マイルの部（8km）を新設。合計8,996名のエントリーに対し、約7,700人を超えるランナーが出走した。また、今年度は給水で出た紙コップを回収してリサイクルするなど「エコ」の取組み強化を図っている。
				柏市新春マラソンの充実	・参加者の健康増進と体力向上のため、毎年1月に県立柏の葉公園にて新春マラソンを開催。令和6年度で第64回目を迎える。 ・平成29年度から市外参加者の制限を撤廃し、名称を「柏市民新春マラソン」から「柏市新春マラソン」に変更。 ・例年約1,500人のランナーが出走している。
		②スポーツ教室等の充実	市民のスポーツへの参加を促進するため、スポーツ協会や指定管理者と連携し、市民ニーズに応じたスポーツ教室等を開催します。	スポーツ協会加盟の競技団体によるスポーツ教室の開催	・レスリングや弓道等、各競技ごとに不定期に開催している。
				指定管理者の自主事業によるスポーツ教室の開催	・指定管理者が主体となり、体育館の空き時間など、スポーツ施設で定期的に各種教室を開催することで利用者の増加を図っている（ヨガ教室、体操教室、テニス教室等）。
				大人のスポーツテストの定期的な実施	・平成28年度から平成30年度まで中央体育館及び県立柏の葉コミュニティ体育館の2箇所を実施。令和元年度はより多くの方に参加してもらえるようモラージュ柏、イオンモール柏の大型商業施設を加え簡易な体験会を開催した。 ・令和2年度以降、新型コロナの影響で実施ができず終了している。 ◆参加者数 平成28年度：86名、平成29年度：85名、平成30年度：114名、令和元年度：401名
		③ニュースポーツの普及	柏市スポーツ推進委員による学校体育施設を活用したニュースポーツ体験教室等を開催し、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの普及を図ります。	スポーツ推進委員の各支部による定期的なスポーツイベント等の実施	・市内5地区（東・西・南・北・沼南）に分割した各支部において、市内小学校にて毎月1～2回定期的にスポーツイベントを開催。小学生を対象にふうせんバレーやショートテニスを実施するなど、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの普及に取り組んでいる。 ・参加者は支部によって異なるが1回20名程度。

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
基本施策 1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実	(1) 気軽に楽しめるスポーツの充実			P T A や地域住民組織などから派遣要請されるスポーツ推進委員の派遣活動の推進	・ PTAや地域住民団体等から依頼があった場合に、指導者の育成や団体の自立を目的としてスポーツ推進委員が出向き、運営のサポートや競技指導を行っている。 ◆R5実績：22件（主な依頼元：ふるさと協議会、青少年健全育成協議会など）
		④子ども（幼児期）の体力づくりの推進	子どもの体力の向上を図るため、遊びを通じて基本的な運動を取り入れ、子どもが積極的にスポーツに親しむ機会をつくります。	関係機関、関係部署との連携によるスポーツに親しむ機会の拡大	・ 柏レイソルと連携し、公式戦がない日に年1回、近隣の公立保育園（1～2園、4・5歳クラス約40人）を三協フロンテア柏スタジアムに招き、園児が天然芝のピッチで遊ぶイベントを開催し、幼児期から運動に親しむ機会を提供している。
				柏市スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験教室の開催	・ 市内5地区（東・西・南・北・沼南）に分割した各支部において、市内小学校にて毎月1～2回定期的にニュースポーツを中心としたスポーツイベントを開催している。（主に子どもを対象に1回20名ほど参加） ・ スポーツ推進委員全体で実施する本部事業を年3回柏市中央体育館にて開催しており、障がいの有無に関わらず参加できる「ニュースポーツまつり」やチーム対抗戦型の「ボッチャ大会」「ふわどっち大会」等を通じて子どもたちがスポーツをするきっかけを提供している。（各回約100人の参加）
		⑤小学校体育活動の支援	小学校と連携して、児童に運動やスポーツの楽しさや喜びを伝え、基礎的な知識と技能を身につけるプログラムを実施します。また、体育指導者を対象にした指導方法の研修を実施します。	小学校の放課後を活用した「運動苦手克服教室」の充実	・ 児童の技能習得と教師の体育授業におけるスキルアップを目的に、民間スポーツクラブの指導者を派遣する小学校体育サポート教室事業を実施（内容は跳び箱を中心とした器械体操）。 ・ 令和元年度のスポーツ課の市長部局への移管に伴い、教育委員会指導課に所管替えを行い継続している。
				小学校の授業で実施する「運動教室」の充実	・ YBC柏と小学校が連携し、全校希望調査で手が挙がった小学校の体育授業においてティール教室を開催し、所属選手にボールの投げ方や打ち方の指導を行ってもらい、運動能力や技能向上を図っている。 ◆R6実施：5校、R5実施：6校
		⑥親子スポーツの促進	子どもの体力づくりと保護者のスポーツへの参加を促進するため、親子・家族向けのスポーツイベントを開催します。	スポーツドリームかしわの開催	・ 障がいの有無、競技や種目にとらわれず、多くの市民がスポーツや運動を始める「きっかけ」づくりを提供する場として開催。 ・ 令和4年度から多世代が身近に訪れる大型商業施設で開催しており、子どもの体力づくりと保護者のスポーツへの関心・参加促進に繋げている。 ・ 令和6年度は5月と10月の各日曜日に開催し、未就学児の親子を中心に各回3,000人近い方にラグビー、サッカー、バスケ等のスポーツを体験していただいた。また今年度は、国際大会に出場する選手のなわとび、チアダンス等のステージパフォーマンスを新たに導入することにより、スポーツに対する意欲関心（ドリーム）、高揚感を高めることができた。
				柏市スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験教室の開催（再掲）	（再掲）

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
基本施策1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実	(1) 気軽に楽しめるスポーツの充実	⑦成人スポーツの充実	スポーツ実施率が低い若年層（20・30代）に対しては、スポーツを普段の生活に取り入れてもらうためのきっかけづくりや、継続を促す取り組みを実施します。	大型商業施設等の身近に訪れる場所での体験イベントの開催	・スポーツになじみの無い層を対象に、自身の基礎体力を手軽に知ってもらうため、大型商業施設での体力年齢診断を開催（令和元年度）。 ・令和4年度からは、スポーツドリームかしわをセブンパークアリオ柏で開催することで親子世代の参加が増え、大人へのアプローチができています。
		⑧高齢者のスポーツ促進	高齢者がスポーツに参加できる取り組みを推進します。また、高齢者の生きがいづくりや介護予防事業などとの連携を視野に入れて取り組みます。	柏市スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験教室の開催（再掲）	（再掲）
				スポーツ、レクリエーション交流会の開催	・市民スポーツ大会やスポーツ推進委員が開催するスポーツイベントにおいて、グラウンド・ゴルフやボッチャといった高齢者でもスポーツに参加できる機会を提供している。 ・高齢者支援課が発行している「シニアはつらつガイドブック」において、スポーツができる施設やヨガ・シニア体操などの健康づくりに関する教室の情報を掲載している。 ・令和6年度には、スポーツドリームかしわにて「フレイル予防啓発ブース」を展開し、他部署（地域包括支援課）との連携を図っている。
		⑨障がい者スポーツの促進	障がい者スポーツの普及・発展のため、関係機関や団体との連携をとり、障がいのある方がスポーツ活動に参加できる環境を充実していきます。	スポーツ交流会やスポーツ教室の開催	・障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる場の提供と、障がい者スポーツの体験を目的としたイベントを、令和元年度に我孫子市と共催で実施し、障がい者を含む約100名の方に楽しんでいただいた。 ・NPO法人スマイルクラブと連携し、市内小中学校に出向いてパラバドミントン教室を開催した。 ◆R4実績：8校（うち、1校は特別支援学級） ・スポーツドリームかしわにおいて、社会福祉協議会や障がい者団体と連携し、ボッチャやバグーなどユニバーサルスポーツを気軽に体験できるブースを設置。親子連れを中心に多くの市民の参加を得た。
				障がい者スポーツの情報発信	・平成30年度に「柏市障がい者スポーツ推進連絡会」を設置し、関係機関や障がい者支援団体と連携した障がい者スポーツの普及や情報交換を図っている。 ・市ホームページに「障がい者スポーツ」特設ページの開設を検討中。
		⑩感染症の拡大防止とスポーツ活動の両立	感染拡大防止とスポーツ活動の両立を目指すため、在宅でも出来る運動・スポーツの普及や施設ごとの感染症拡大防止ガイドラインの周知徹底を図ります。	在宅でも出来る運動・スポーツの普及	・コロナ禍で外出できない時期に、心身の健康の保持増進等を目的とした、屋内でもできる「おうちdeトレーニング」を令和2年度にホームタウンチームの協力を得て作成し、市ホームページにて公開しているが、公開後は更新できていない。
		①競技大会への参加支援	競技スポーツの普及、強化を図るため、各大会に出場する選手、団体に対し、奨励金等を交付します。	県民大会の派遣費補助	・本市のスポーツ振興を図る目的で、柏市スポーツ協会が派遣する県民スポーツ大会参加者の旅費（全額）・参加費（全額）・宿泊費（一部）について、補助金による支援を行っている。 ◆R6実績：【夏】水泳、セーリング、体操、ゴルフ、ボウリング、卓球 【秋】バレーボール、陸上、クレ射撃など（予定） 【冬】サッカー、スキー（予定）

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
基本施策1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実	(2) 競技力向上の促進	②トップアスリートとの交流・連携の促進	本市に拠点を置いている多くのホームタウンチームと連携し、トップアスリートやホームタウンチームの人材を活用した講演会や実技指導を行います。	ホームタウンチームと連携したスポーツ教室の開催	・東京オリパラ開催年度までの時限事業として、トップアスリートを講師に招き講演会を開催した。トップアスリートと触れあうことでスポーツの素晴らしさを広く市民に体感してもらえる事業となった。 平成28年度：佐古賢一氏（バスケットボール） 平成29年度：増田明美氏（マラソン） 平成30年度：小宮山悟氏（野球） 令和元年度：北嶋秀朗氏（サッカー） ・ENEOSサンフラワーズと連携し、毎年8月に市内の中学女子バスケットボール部員（市内全中学校対象、各校4名まで）を対象としたバスケットボール教室を沼南体育館で開催している。 ◆R6実績：8月3日（土）参加者65名
		③スポーツ教室の開催	スポーツ協会の加盟団体等による競技者を対象とした各種目のスポーツ教室を開催し、競技者の技術向上を図ります。	スポーツ協会加盟の競技団体によるスポーツ教室の開催（再掲）	（再掲）
	(3) 総合型地域スポーツクラブの支援	①活動の支援及び、活動拠点の提供	活動拠点として学校体育施設や公共スポーツ施設を提供します。	総合型地域スポーツクラブ間の定期的な意見交換会の開催	・総合型地域スポーツクラブの設立から3年間は、補助金を通じて団体の活動費の一部を支援しているが、定期的な意見交換会は実施できていない。
				市内総合型地域スポーツクラブの1日体験クラブの実施	・身近な地域で多世代、多種目、多志向で「いつでも、どこでも、誰とでも」スポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブは市内で6団体あり、平成31年度に設立された「まちサカ」では、未就学児から大人までの約280名が柏の葉小などでサッカーやフットサルを中心とした活動を行っている。
		②広報活動等の支援	総合型スポーツクラブの認知度を高めるための広報活動を継続して行います。	総合型地域スポーツクラブの会員増加及び、イベントの情報発信	・広報誌や市ホームページ、スポーツ課公式X（旧twitter）などで随時掲載
	基本施策2 魅力ある「みる」スポーツの充実	(1) 観戦スポーツの推進	①スポーツ観戦情報の提供	大規模イベントやトップアスリートが参加する大会だけでなく、市内で開催されるスポーツ大会や市内のチーム・選手などが出場する大会の情報提供を行います。	市のホームページやSNSによるタイムリーな情報提供
柏レイソルなどのトップチームの活躍を市のホームページやSNS等で情報発信					・表敬訪問などイベントの様子を市ホームページや共生・交流推進センター公式X（旧twitter）などで随時掲載している。
(2) 魅せるスポーツの推進		②ホームタウンチーム等との協働	プロや実業団チームの試合を間近に観戦し、スポーツ観戦の興奮や感動を与える機会を提供します。	ホームタウンチームの競技観戦の機会の提供	・柏レイソル、NECグリーンロケッツ東葛などのプロスポーツチームと連携し、小学生や中学生を対象とした公式戦への無料招待企画を実施している。 ◆R6実績：柏レイソル：2024シーズン9試合300枚
				①メディアの活用	スポーツの魅力を引き出すためには、メディアによる盛り上げは欠かせません。 地域のメディアとの連携を図り、ケーブルテレビ、新聞、地域誌、市ホームページなど多様な媒体を通じたPRを検討します。
		市ホームページにて、アマチュアの市民アスリートの活躍を紹介	・県大会や全国大会で顕著な成績を収めた市民アスリートを広報誌や市ホームページで紹介しているが、更新頻度等、更なる充実を図る必要がある。 （市ホームページ：「アッキーのカシスポ応援したいっ！！」、広報誌：「フルエール」、「Kashiwa Photo Diary」など）		

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
		②観るイベントの開催	市民のスポーツへの関心を高めるため、多くの市民が関心を持つ大会などの観戦イベントを行います。	パブリック・ビューイング等の開催	・ラグビーワールドカップ2019においてニュージーランド代表の試合のパブリックビューイングをららぽーと柏の葉にて開催。 ・令和4年大相撲五月場所にて、柏市出身力士の「隆の勝関」の優勝がかかった千秋楽のパブリックビューイングをパレット柏にて開催。
基本施策3 感動を分かち合う 「ささえる」スポーツの充実	(1) スポーツボランティア活動の推進	①スポーツボランティアの活動機会創出と育成	手賀沼エコマラソンなどのスポーツイベントに参加できる機会の拡大に努め、気軽に参加できる活動であることをPRするため、広報宣伝活動を推進します。また、地域スポーツを支えるボランティアの育成に努めます。	手賀沼エコマラソンなど、ボランティアとして参加する機会の創出	・手賀沼エコマラソンについては関係団体のほか、広報誌にて広く運営ボランティアの募集を実施している。また、庁内全体に呼びかけ、職員ボランティアの募集を行っている。（当日は、約1,000人のボランティアが参加） ・新春マラソンについては、運営はスポーツ協会加盟団体会員やスポーツ推進委員などの関係団体で行い、一般ボランティアの募集は行っていない。（当日は、約300人のボランティアが参加） ・スポーツドリームかしわについては、ボランティアとしてブース運営が可能な団体を募り協力いただいている。（当日は、約115人が協力）
				スポーツボランティアの意義や価値をPRする広報活動の推進	・広報誌等にてボランティア参加者を募集
		②柏市スポーツ推進委員の活動の充実	柏市スポーツ推進委員が、市民のニーズに応じた活動の場が広がるよう、研修会や他団体との指導交流などによるスキルアップを図ります。	柏市スポーツ推進委員のスキルアップ研修会等の開催	・毎年3回、柏市スポーツ推進委員の全体研修会を実施しており、本部事業で実施する種目の審判講習の実施や各支部でも研修を実施している他、県主催の研究大会や研修会への参加など、委員の能力向上に取り組んでいる。 ◆R6本部実績：9/24（土）ボッチャ研修会 24名参加
		③大学への施策展開	地域のスポーツボランティアの充実に向けて、学生がスポーツボランティアに取り組む仕組みを検討し、スポーツを通じた大学の地域貢献活動を促進します。	学生スポーツボランティア制度の検討	・市内近郊の大学と連携したスポーツ推進委員の募集を検討中 ・市主催のスポーツイベント等（エコマラソン、スポーツドリームかしわ）においてボランティアスタッフとして当日運営の参加機会を設けている。
	(2) 奨励制度等の充実	①奨励制度等の充実	上位大会にて優秀な成績を収めた選手、団体に対する顕彰を行います。また、スポーツ団体の活動に対する補助制度の充実を図ります。	スポーツ顕彰制度	・市民の競技スポーツに対する意識の高揚等を図ることを目的に、スポーツ活動で優秀な成績を収められた個人や団体に対し、年度末に柏市民文化会館小ホールにて顕彰式を実施している。 ・平成28年度から障がい者スポーツの大会も交付対象に加えている。 ・R5実績：89件（国際大会入賞：21件、全国大会3位以内：68件）
				国際大会・全国大会出場団体等への奨励制度の充実	・スポーツへの意欲を高め、競技力の向上を図るため、全国大会や国際大会に出場する市民を対象に奨励金を交付しており、交付件数は増加傾向にある。 ・平成28年度から障がい者スポーツの大会も交付対象に加えた。 ・平成30年度に国際大会出場時の奨励金交付単価を25,000円から50,000円に増額。 ◆R5実績：337件（国際：31件、全国306件）

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
基本施策 4 気軽に利用できる 「場所」の充実	(2) 学校体育施設の 活用の促進	①学校体育施設開放 事業の充実	地域住民の身近なスポーツ活動の場として利用できるよう、学校の実態に応じた開放を推進します。	小・中・高等学校の体育施設を地域のスポーツ団体へ開放	・現在、約465団体が地域の身近なスポーツ活動拠点として学校体育施設（体育館・校庭・武道場）を定期的にご利用し、スポーツ活動に取り組んでいる。 ・団体間の利用調整については、各学校に設置している学校開放運営委員会（教頭、各団体代表、スポーツ推進委員等で組織）にて行っているが、近年、利用団体が多く新規団体が入りづらい環境にある。
		②総合型地域スポーツクラブの支援（再掲）	身近な生活圏で気軽にスポーツに親しめる環境をつくるため、クラブが活動するための支援を行います。	総合型地域スポーツクラブの活動拠点の提供	（再掲）
		③学校プールの有効活用	夏季の学校休業期間中、小学校のプールを開放し、地域の児童の運動の場を提供します。	小学校プール開放事業の充実	・これまで小学校のプールを活用し実施していた夏休みの小学生向けプール開放事業を、近年の猛暑による暑さ対策や学校プールの老朽化等を背景に、令和5年度から市内民間スポーツクラブの屋内プールで実施している。 ◆実績（利用者数） 令和6年度：2,918人 令和5年度：2,815人 ◆開放施設（市内8事業者） 柏洋スイマーズ（江戸川台、柏、南増尾），メガロス柏 オックスベストフィットネス柏，ダンロップスポーツ（豊四季，南柏） セントラルウェルネスクラブ24
	(3) 企業・民間スポーツクラブとの連携	①企業・民間スポーツクラブとの連携	企業・民間スポーツクラブと相互に連携を図りながら市民のスポーツ活動を活性化させるため、民間施設の利用提携などを進めていきます。	民間スポーツクラブの温水プールの利用機会の提供	・令和6年度現在、市内民間スポーツクラブ3事業者と協定を締結し、柏市スポーツ施設利用登録証を提示することで、年間を通じて市民が気軽にプールを利用できる機会を提供している。
				企業・民間スポーツクラブとの協働事業の実施	・平成28年度に柏フィットネス振興会（ゴールドジム柏千葉，オックスベストフィットネス柏，メガロス柏，セントラルウェルネスクラブ24柏）と連携協定を締結し、R2コロナ禍前まで、体力年齢診断事業をはじめとしたスポーツ活動を実施した。 ・東京2020オリパラ競技大会の機運醸成及び地域活性化を推進するために、令和2年にコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社と連携協定を締結。令和4年の第28回手賀沼エコマラソン大会にて、各給水所で使用する「アクエリアス」と「いろはす」の飲料協賛をいただいた。 ・令和5年度から夏休みの小学生向けプール開放事業を民間スポーツクラブのプールで実施している（市内8事業者）。
基本施策 5 スポーツを楽しむ きっかけとなる 「情報」の充実	(1) スポーツ情報の 発信	①効率的なスポーツ 情報の発信	市民のニーズに即した幅広いスポーツに関する情報提供を進めます。	市のホームページに掲載するスポーツ関連情報の充実	・市ホームページでホームタウンチーム関連の情報を掲載。令和元年度からアマチュアスポーツの情報も集約し、スポーツ関連情報を一括して提供するように運用を変更しているが、更新頻度等、更なる充実を図る必要がある。
				公共機関や店舗、医療機関などと連携した情報提供	・イベント開催告知ポスターやチラシの掲載依頼を随時実施している。 （スポーツ施設、近隣センター、市内小中学校、市内保育園・幼稚園、大型商業施設、民間フィットネスクラブなど）

大項目	中項目	具体的施策	内容	事業展開	主な実施内容
				LINEなどSNSを活用したスポーツ情報発信の効果的な運用	・令和3年度からLINEによる情報配信の運用開始予定であったが、実際に運用はできていない。スポーツ課X（旧：Twitter）については、主にイベントの告知手段として活用している。
		②スポーツ観戦情報の提供（再掲）	大規模イベントやトップアスリートが参加する大会だけでなく、市内で開催されるスポーツ大会や市内のチーム・選手などが出場する大会の情報提供を行います。	市のホームページやSNSによるタイムリーな情報提供	（再掲）
				柏レイソルなどのトップチームの活躍を市のホームページやSNS等で情報発信	（再掲）